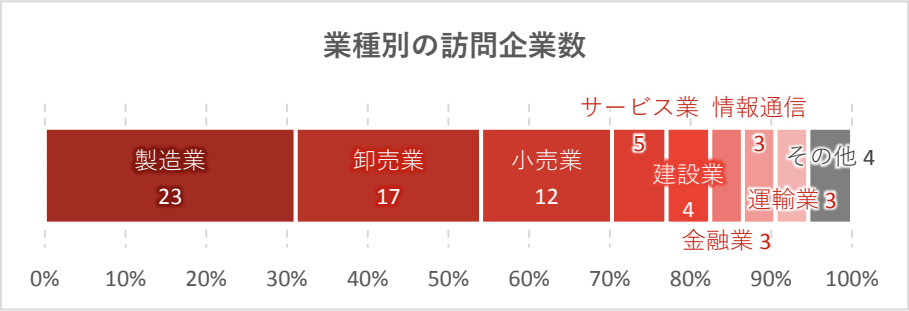
2022 年度 長岡大学 就職先ヒアリング

長岡大学 大学評価室

2021 年 10 月上旬から 2022 年 8 月にかけ，就職支援室職員が卒業生の就職先企業・団体を訪問し，就労状況や退職した場合においてはその理由，また求める人物像や本学の良いところ・悪いところなどを採用担当者から聞き取ったものをまとめた．

訪問企業・団体数は，延べ 97 社，複数回訪問している企業等もあるため，実数では 74 社である．

業種別には，製造業が 23 社，卸売業が 17 社，小売業が 12 社等であり，詳細は以下の「業種別の訪問企業数」の通りである．訪問企業数が 1 社の業種については「その他」にまとめている．

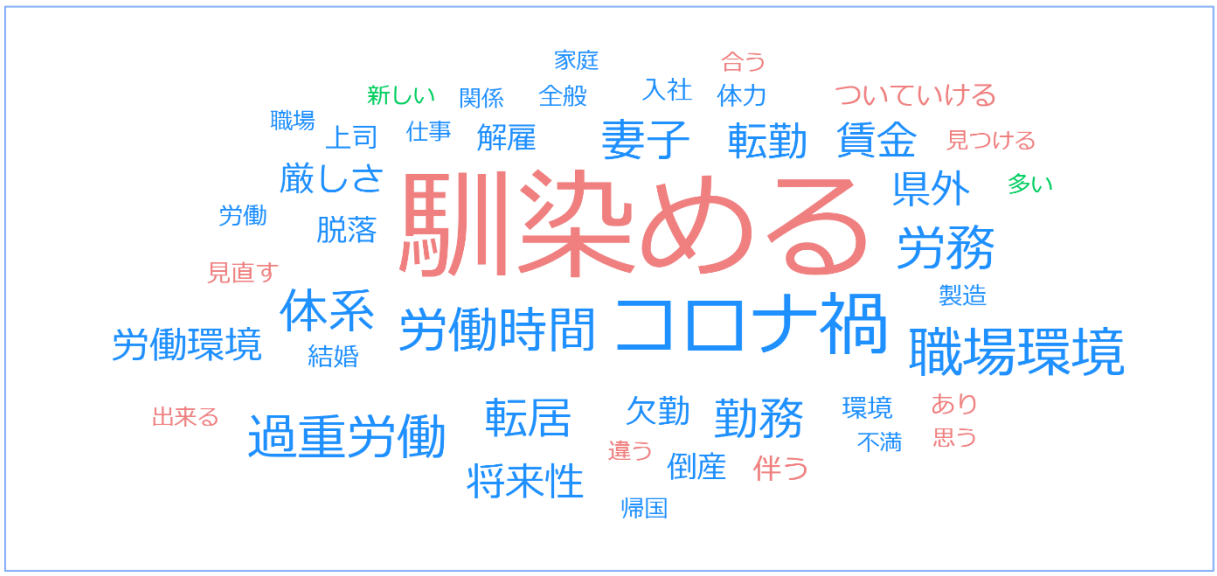


訪問企業 74 社に就職した卒業生 289 名の内，各企業への訪問時点において在籍数は 216 名で，継続在籍率は 74.7%である．

個別にすべて調査をしているため，企業別・業界別の在籍率も集計はしているが，ここでは省略する．また，退職については本人の意向によらず，企業が新型コロナウイルス感染症禍に伴い業績低迷に陥り，破産手続き開始によって退職になった卒業生を含んでいる．

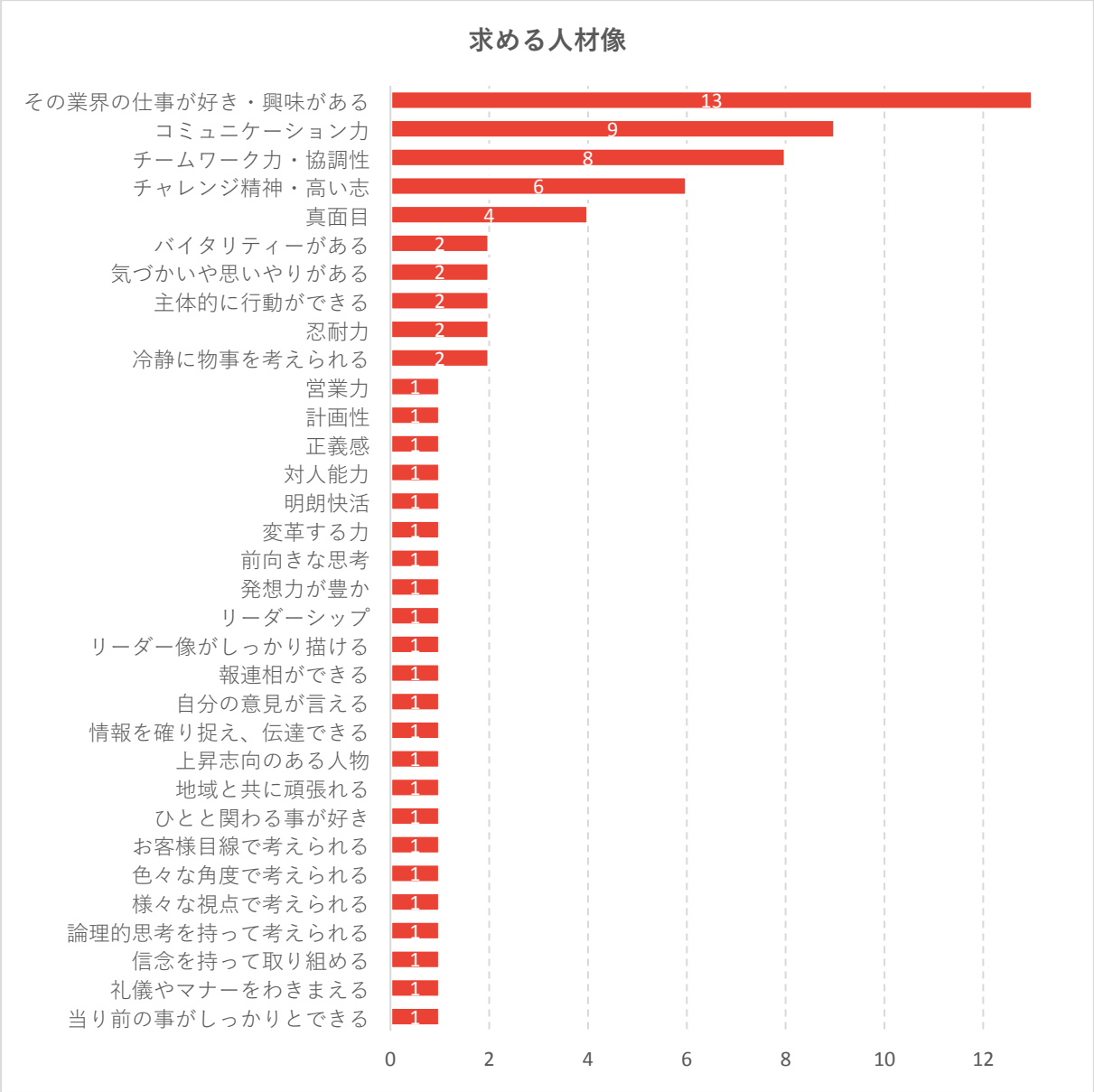
退職理由

訪問先企業等から聞き取りをした退職理由について，「ユーザーローカル」Web サイトのワードクラウド処理を施した結果が以下の図である．



訪問先企業等が求める人材像

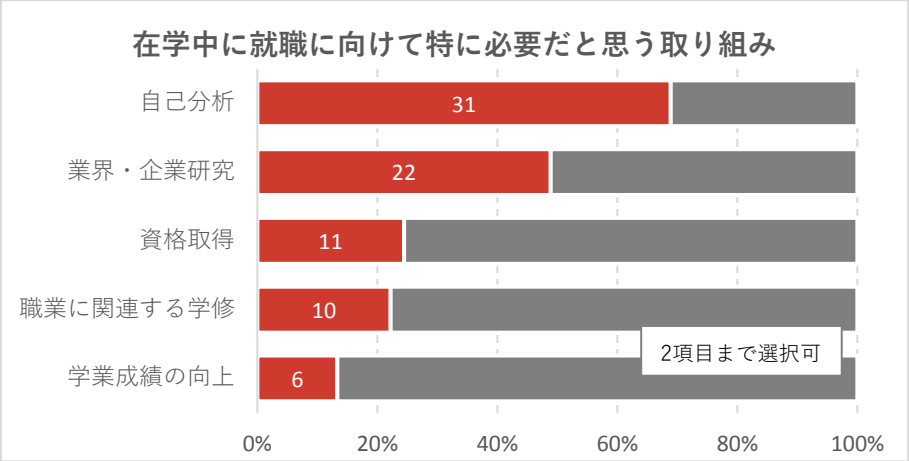
（聞き取り内容に基づき，類似した意見を同一項目として集約）

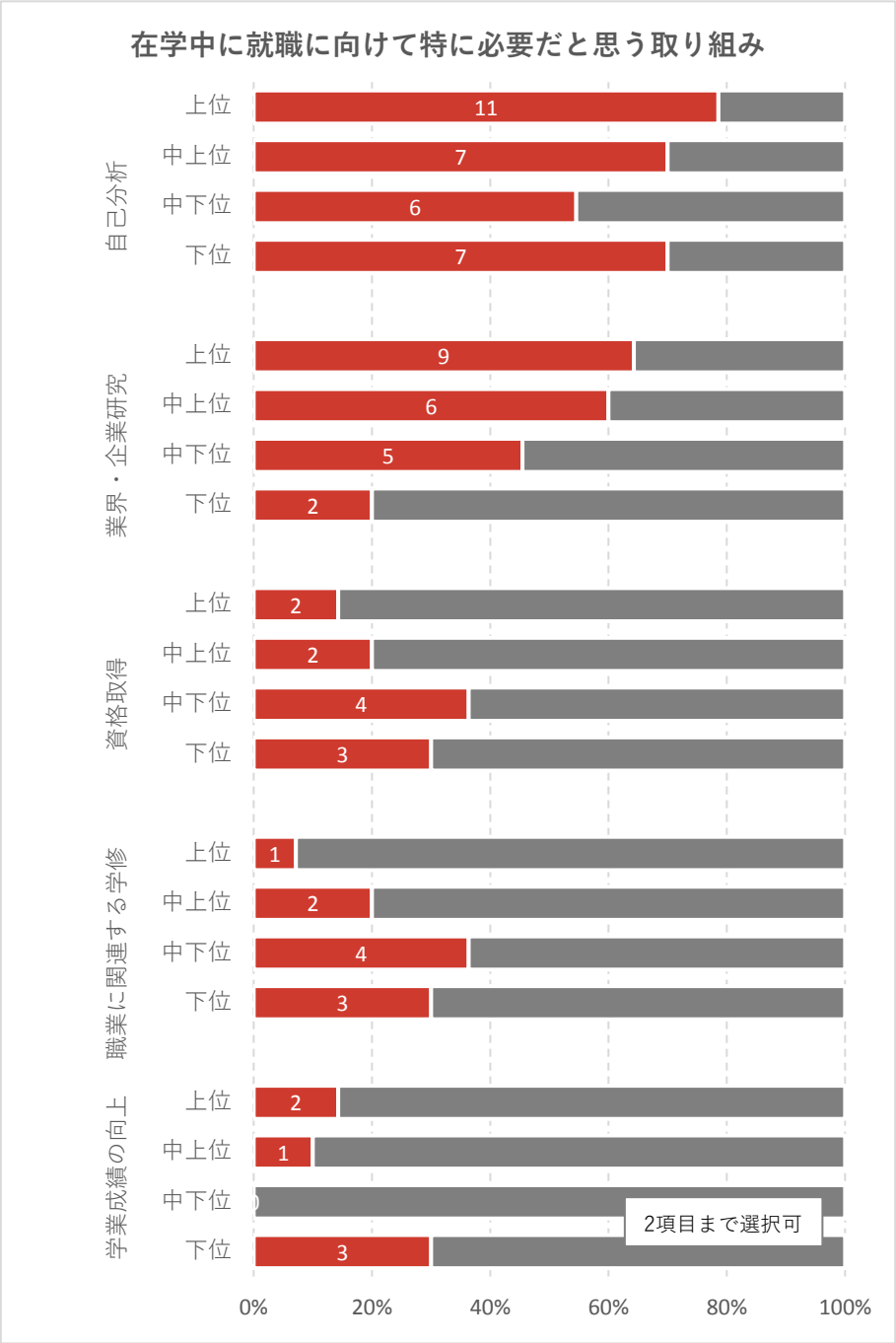


一般的に言われる「コミュニケーション力」よりも，製造業であれば「ものづくりが好き」，情報通信業では「IT・情報関連に興味がある」など，その業界に興味・関心を持っていることが求められており，本学卒業生に限らず採用時・就職時のミスマッチが背景にあると推測される．

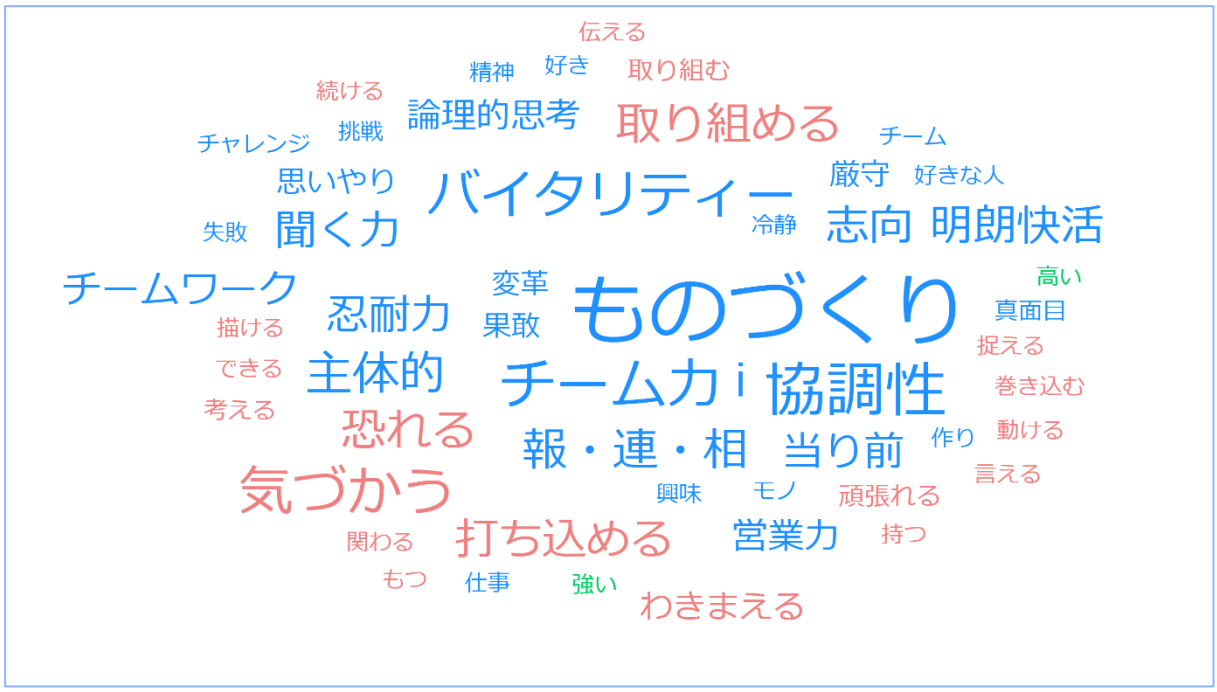
卒業生アンケートでも，「就職に向けて特に必要と思う取り組み」の上位は「自己分析」の 31 件で回答者の 68.9%が選択している．次点が「業界・企業研究」の 22 件で回答者の 48.9%が選択している．

また，在学時の GPA 別でそれぞれの項目の選択人数を見てみると，「自己分析」については，成績によらず必要な取り組みだと思っている．「業界・企業研究」については，成績上位層の方が，より必要な取り組みだと考えている傾向が見られる．社会に出てからの経験で，新たに感じることが多く，その観点から学生時代にもっとしっかりと取り組むべき項目と回答した可能性が考えられる．

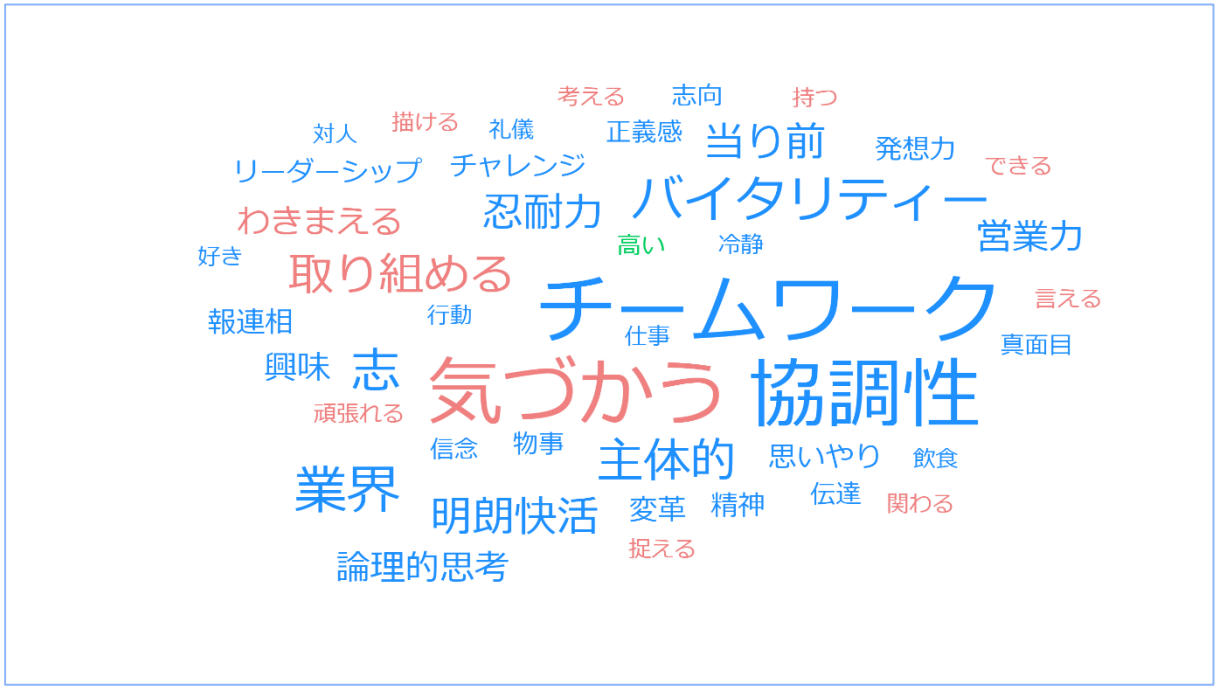
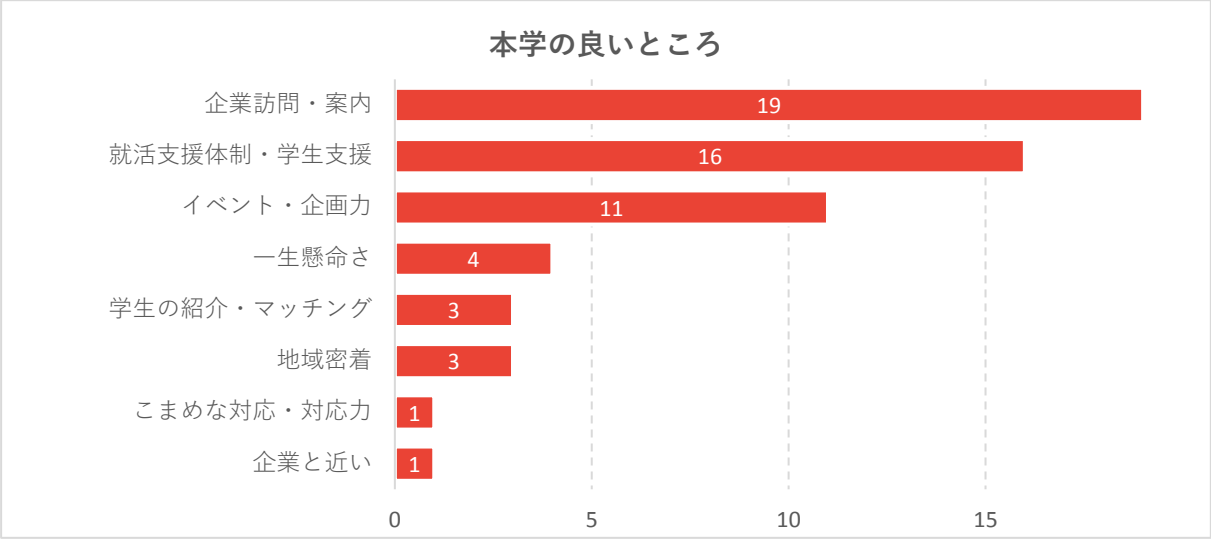

在学中に就職に向けて特に必要だと思う取り組み
自己分析
31
業界・企業研究
22
資格取得
11
職業に関連する学修
10
学業成績の向上
6
2項目まで選択可
0%
20%
40%
60%
80%
100%


在学中に就職に向けて特に必要だと思う取り組み
自己分析
上位 11
中上位 7
中下位 6
下位 7
業界・企業研究
上位 9
中上位 6
中下位 5
下位 2
資格取得
上位 2
中上位 2
中下位 4
下位 3
職業に関連する学修
上位 1
中上位 2
中下位 4
下位 3
学業成績の向上
上位 2
中上位 1
中下位
下位 3
2項目まで選択可
0%
20%
40%
60%
80%
100%

訪問先企業等が求める人材像について，上記グラフで集計の関係上，一部集約したが，そのままの文言で「ユーザーローカル」Web サイトのワードクラウド処理を施した結果が以下の図である．



グラフ処理のため，一部集約した文言で「ユーザーローカル」Web サイトのワードクラウド処理を施した結果が以下の図である．



訪問先企業等の採用担当者が考える本学の良いところ